

2024年度特別オファー

情報活用能力測定ツール 無償共同実証プロジェクトご案内



1人1台端末が全国の公立小中学校に配備がされて4年目に突入します。

これまでは「とりあえず使う」という段階で各学校で端末活用に尽力されてきたかと思います。

全国学力・学習状況調査の質問紙では、年々学習者用端末の利用も増加しています。一方で、これからは「**とりあえず使う**」から「**これから求められる資質能力を養うための端末有効活用**」を本格的に考える段階になっています。そこで、学習の基盤となる資質能力の1つである「情報活用能力」が注目されています。

生成AIを用いた学習やプログラミングなど今後様々なテクノロジーを活用しながら、問題発見や解決に向けた取り組みをしていくことが予想されます。このような背景から一般社団法人国際エデュテイメント協会は、小学校-中学校までの児童生徒を対象に情報活用能力を診断するツール「ジョーカツ」を開発し、8月末に正式リリースをし、第一弾の実証としては、全国6地域での実証をしました。

今回も第二弾実証プロジェクトとして、経済産業省の「働き方改革支援補助金」を活用し、引き続き無償利用にて参加していただける自治体様及び学校様を募集しています。以下が実証プロジェクトの概要となりますのでご確認ください。

実証期間	2024年6月~2025年3月末日
料金	無償
対象学年	小学5年~中学3年
実証目的	参加学校の情報活用能力の向上、「ジョーカツ」の有用性調査・改善
実証内容	<ul style="list-style-type: none">・情報活用能力診断「ジョーカツ」の診断 (合計2回-3回程度)・学校単位での情報活用能力の測定及び分析レポート作成 ※国際エデュテイメント協会が作成します。・「ジョーカツ」の質問内容についてのフィードバック

ジョーカツとは？



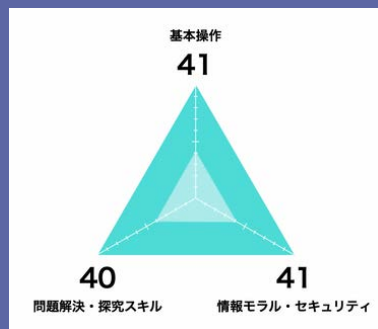
情報活用能力を可視化し、 学びの指針に。小中の接続に。

情報活用診断ツール「ジョーカツ」とは、小学生～中学生までの教育課程において学習者用端末の活用を軸とした情報活用能力の診断を行うことができます。

本診断は、文部科学省が提示した「情報活用能力の体系表例」を基に全28問の質問から構成されています。診断結果は、情報活用能力における3つの軸（基本操作スキル、問題解決・探究スキル、情報モラル・セキュリティスキル）で診断されます。

診断の流れ

児童生徒が楽しく、主体的に診断できる診断



STEP1：全28問の質問を答える

STEP2：結果がキャラクター、レーダーチャート、項目別分析で表示される

ジョーカツを使うとどうなるのか？

- ・ 情報活用能力の現在地が児童生徒レベル、学校レベル、自治体レベルで把握できる
- ・ 現在地がわかることで次の指導方針や端末活用方針の見通しを立てることができる
- ・ 適切な校内研修やICT支援員等からのサポート強化内容が明確になる
- ・ 結果的にICTの利活用促進につながる

実証プロジェクトの流れ

実証に参加していただく際にご協力いただくのは、5月-7月と12月-3月の「ジョーカツ診断」とレポートを返却する際の「お打ち合わせ」のご協力をお願いしております。

ジョーカツ診断
診断結果分析共有

5月~7月

診断結果を参考に
校内研修&端末利用

8月~11月

ジョーカツ診断
診断結果分析
次年度の計画

12月~3月



実証のお問い合わせ